

水入らずで伝える「ハタチの感謝」

毎年のように「荒れる新成人」が報じられる自治体主催の成人式。だが、今年度(来年1月)はコロナ禍で開催も不透明だ。そんななか、身内のみで行う「家族のための成人式」に注目したい。「前撮り」と呼ばれる撮影会とセットで行われ、年々参加者を増やしている。梅雨の晴れ間の日曜日、親子水入らずの成人式に密着すると、普段は照れくさくて伝えられない感謝を言葉にする新成人、成長した姿に目を細める親…。取材中、もらい泣きしそうなシーンもあった。

(重松明子、写真も)

家族のための成人式

「お父さん、お母さんへ。これからも…見守ってください」。振り袖姿の大学2年、日高海琴さん(20)の頬に涙が伝っていた。

港区白金台の老舗結婚式場「八芳園」。7月18、19両日、和装80店を展開する「いつ和」(新潟県十日町市)が開いた「家族のための成人式」での1コマだ。同社で晴れ着を購入・レンタルした顧客を対象に、式費用は撮影+セレモニーで3万8500円。飲食はなく、親が子育ての思い出と励ましをつづった「巣立ち証書」を、子が親への「感謝状」を朗読して交換



二十歳の節目に家族3人の記念リングを作った日高海琴さん。父の達也さんは、娘の成長と亡き妻への感謝で感無量だ。港区の八芳園

近ごろ都に流行るもの

する。2日間で19組の家族が成人式を行った。セレモニーの間、涙が止まらない冒頭の海琴さん。「親子3人で遊びに行ったこと。高校受験の際にスポーツ推薦での進学を反対しながら、最後は意思を尊重してくれた母への感謝。両親との光景が次々と頭に浮かんでいました」

「立派に育ってくれたのは、カミさんのおかげです」と父の会社員、達也さん(51)。ちょうど翌日が妻・智美さん(享年49)の三回忌という。高校時代に母をがんて亡くした海琴さんは、この日のためにコンピ

両親と祖母、おばに見守られて式に臨んだ大学2年、浅野亜由美さん(19)は、「感謝と大人の自覚が芽生えた。コロナで自治体の成人式ができるか分からないなか、親族で式ができてよかった。この後、お庭を歩いて食事をするのが楽しみです」。

「成人式で問題行動が頻発。自治体の式典も本来の趣旨から外れてフェスティバル化、形骸化している」と、いつ和アンバーサリ事業部の中西昌文部長(49)が企画の背景を振り返った。「成人式は、親にとつては『子育て卒業式』。かつては結婚式がその役割を果たしていたが、晩婚や非婚化で機会が奪われている」とも語る。



「家族のための成人式」。ありがとつと思いを涙ながらに朗読する日高海琴さん。1人参加した父は拍手を送った

男子は全体の1割と少数だが「『凛々しい姿を見たい』という母の要望に従う形で、紋付きはかまを着ている。昔と違って仲良しの母・息子が増えており、今後ニーズが見込める」と期待している。

今回初めて結婚式場で開催。八芳園企画セクションの市川宏幸マネジャー(37)によると、今の時期の土日は例年なら1日15〜20組の挙式があるが、「コロナ禍で昨日は1組、今日はゼロです」。代わりに鮮やかな振り袖が日本庭園を彩る。「家族のための成人式は、私どもも共感するところが大きい。今後も、ご家族の幸せな節目をサポートしたい」と語った。

式典の大幅な変更や見直しが行われているコロナ禍は、成人式の「正常化」を問い直すチャンスかもしれない。